

第4回佐賀市社会教育委員の会議 会議結果（議事録概要）

1 開催日時 令和6年1月22日（月）10時30分～12時

2 開催場所 青少年センター 大会議室

3 出席した者の氏名

○社会教育委員 12名

上野景三委員、谷口仁史委員、井原竹始委員、石丸正信委員、佐藤泰弘委員、野口剛志委員、秋山翔太郎委員、寺野幸子委員、小石美貴委員、関弘紹委員、大村綾委員、嶋津眞由美委員（加藤雅世子委員は欠席）

○事務局

丹宗教育長、大松教育部長

【社会教育課】

大塚社会教育課長、宮崎副課長兼総務企画係長、北島子どもへのまなざし運動・若者支援推進室長、只隈主査

【公民館支援課】

大坪公民館支援課長、松尾副課長兼施設整備係長、蘭公民館支援係長

4 傍聴者 0名

5 議事

(1) 令和5年度佐賀市社会教育関係事業について

各事業を説明し、委員から質疑・意見をいただいた。

（○…委員からの質疑、◎…委員からの意見、●…事務局回答）

【金立教育キャンプ場管理運営事業】

○青少年団体の団体数を教えていただきたい。

●ここでは把握していないので、後日回答させていただきたい。

○雨漏りするテントがあるので、テントの更新をお願いしたい。

●職員と話をしながら、徐々に更新等できるところはしていきたい。

○昨年の反省点、問題点の中に、ソロキャンプなどが増えて、マナーの悪さも目立つようになったとあったが、今年度はどうだったのか。

●マナーについて直接声は届いていないが、全体の利用が大幅に減少している中、青少年団体の利用割合は微増となっており、大人だけの利用等は減少しているのではないかと評価している。

○キャンプ場の運営や公民館での生活体験型学習において、例えば1人親家庭の子どもたちや、親御さんに障害があり屋外での活動が難しい御家庭の子どもたちが、ほかの家庭の子どもと同じように利用出来ているのかという、体験の格差という視点を持って事業を分析したり、そういった課題を持ってデータ収集をしているか。

◎体験の格差に言及されたが、社会的孤立の深刻化という点では、こういった施策の恩恵を受けている人と受けられてない人の格差が一気に広がっているという状況が

見られる。全国調査では、義務教育段階では不登校が、それを支える家庭でも、虐待、DVの相談件数は過去最多を更新している深刻なデータが出てきている。また、全世代に比べて10代から20代前半の若者の就職する困難度が急激に高くなっていることが明らかになっている。学校教育から社会教育、就職という社会参加というところを一貫して支援、伴走してフォローしていくという観点を持って、対策を考えていかないと、いよいよ難しい時代が来ると思う。佐賀市はアウトリーチに関しても率先して取り組んでおり、子ども若者支援室の取組、さらに地域若者サポートステーション、その拠点も佐賀にあるので、そういった社会問題の解決を射程に入れて調査していくということも大事ではないか。

- 体験の格差という視点は、今までもっていなかったように思う。いただいた意見を参考に、新年度から検討していきたい。
- ひとり親の御家庭や障害者の方の体験格差について、公民館にもアンケート等を取りながら、状況を把握して格差を埋めていきたい。

#### 【各種講座・事業の実施】

- 公民館で地域の方が、どういう地域の課題解決のための相談をされているか、集計されているのであればお聞きしたい。
- 公民館でアンケートを実施している。ほかに公民館の事業は、単独で主催でやる事業と、まちづくり協議会などの地域団体と共催でやる事業があり、まちづくり協議会が地域団体の意見を把握できる場として、意見交換をしながら、公民館で地域の実情に合わせた事業を実施している。
- ◎オンライン配信等今後いろいろとセミナーも予定されているので、オンラインについての情報のアクセス性や、同時にライブ配信される、後で動画で視聴できること等は、全体的に進めていただきたい。
- ◎オンラインを活用した講座の共有化について、今後を考えると、大きな一歩だと思う。人手不足で、非常に現役世代の負担が強くなっている中、できるだけ簡易で多くの人たちが参加できるような対策、DX推進は欠くことは出来ないと思う。
- 公民館職員のオンライン講座の実施に向けたスキルは、アバンセの研修等により、少しずつスキルを上げていっている。動画の配信関係も、まだまだ佐賀市の公民館は追いついていないが、今後は検証していきたい。
- 各課の事業との連携の推進という各課とは具体的にどういうところか。
- 健康づくり、福祉、環境、人権、デジタル等、様々な分野に及び、公民館職員がまちづくり協議会などの団体からの意見を聴取して、必要な課に持ちかけ事業を実施している

#### 【公民館事業の評価制度】

- 運営評価・事業評価は理解できるが、主な改善点というのは何なのかお聞きしたい。
- 公民館の指針に応じた評価表で、自館で実施した評価を見ながら、公民館支援課職員

と社会教育課職員と一緒にヒアリングをし、各公民館の弱いところ等について、助言や指導を行っている。

#### 【地域学校協働活動推進事業】

- コミュニティースクールについて、実施されている校区は何校区あるのか。また、スムーズな運営が出来ているのかは確認しているのか。
- コミュニティースクールの設置については教育総務課が担当しており、社会教育課ではコミュニティースクールの設置状況が現時点で12校という把握はしているが、運営状況までは把握していないため、教育総務課と情報を共有したい。

#### 【放課後子ども教室推進事業】

- 6校区が委託にて実施をされたということだが、今後増える予定はあるのか。
- コロナ禍で中止していた校区が、来年度活動再開にむけた契約の準備について確認をしているが、佐賀市の状況が、全市一斉にこれを配置するような事業をしていなかったため、事業の周知はしているものの、今後増える予定はたっていない。
- 放課後児童クラブとの連携とは、具体的にどのような連携なのか。
- 佐賀市の場合は、放課後というより主に土日の行事が多いが、子どもたちの土日の居場所づくりの周知等、放課後児童クラブの皆さんにも広く案内をして進めていく。

#### 【非行防止対策事業】

- 駅前にはたむろしている若者が増えて、大麻の使用まであったということがあったので、その辺のそのまなざし育成委員の巡回等の対応をお聞きしたい。
- 非行の状況が見えにくくなっており、挨拶運動等も役割として加えていっている状況で、そういった事件性のあるときのかかわり方について、あまり研修が出来ていないため、今後、班長会等で情報共有しながら、その対応、対策についても研修会の議題に上げていきたい。
- 子ども若者支援専門官によるインターネットの見守り活動について、何名ぐらいで活動されているのか。
- 令和5年度に3名体制で始めている。インターネット見守り活動においては、インスタグラムの中に入り、個人情報や子どもの名前や学校が分かるような情報を開示している場合、学校教育課にその情報を上げて、つないでいくことを始めている。
- 子ども電話、メール相談、面談相談で、継続した支援が必要と判断した場合は適切な窓口につなぐとあるが、何件ほど継続した支援が必要だと判断されたのか。
- 今詳しい資料を持ってきていないが、子ども若者支援室の相談電話を紹介したというケースが2件ほどあったと記憶している。また、高校生から、人から脅かされているという相談メールがあり、佐賀県警の少年サポートセンターにつないだケースが1件あった。
- 少年育成委員はどのような形で選出されているのか。
- 各公民館長に推薦をしていただいている。地域のことを熟知し、子どもたちの見守

りに熱い思いがある方という条件で、年齢制限はない。人数も、当初からその地域で取組みたい人数としており、近年は推薦人数がなかなか集まらない所は、地域の班長や公民館長と話をし、1名減にした校区もある。

#### 【二十歳のつどい開催事業】

○二十歳の代表スタッフの応募がなかったということだが、今後、ここを呼び入れるために、どのような方向性を持っているのか。

●今年度は、夏頃ホームページでスタッフ募集したが、ホームページだけでは、なかなか集まらなかったため、来年度はできるだけ早く広報をし、久米島町中学生交流事業の卒業生に依頼することも考えていきたい。また佐賀大学や西九州大学があるので、大学の協力もいただき、確保に努めたい。

#### 【家庭教育講座開催事業】

○家庭教育講座の講師をしており、オンラインのアンケートがあったが、回答が1件のみだった。今後続けていくのか。

●紙のアンケートの配布と集約に大変時間がかかっていたため、グーグルフォームでのアンケートを今年度行ったが、紙だと出さないで素通りするのがなかなか難しい分回収出来ていたところが、入力したかが見えないので、実際の回収値が大変低いということを担当者から聞いており、来年度は紙に戻すか検討する。

#### 【共育応援モデル事業】

○事後評価は、事業の終了後どのくらい経ってから評価をしたのか。

●終わった後すぐにされたと記憶している。

◎この事業については、私どもの団体で受託をため、補足させていただく。他者評価については、スタッフが、最初と真ん中と最後で、客観的な視点を持って評価を行った。自己評価については、参加の前と参加の後、事業終了直後に参加者がアンケートに回答したものを比較して評価を行った。

○「なかまほいく」も「はじめのいっぽ」も、一定の効果があったということで、特に、参加者が地域で子育てサークルを立ち上げるという方向が見られたことは、とてもいいと思うが、人数的な広がりについて、来年度以降の実施方法等という方向で進めていくのか。

●この事業は、参加した側が次は支援者になるなどの好循環が期待できるため、裾野を広げていくという意味では、当面は市主催の事業として実施していきたい。将来的には子育てサークルなどの団体が、自立して事業が行うことができればと思っている。

○仲間うちの内向きのサークルをつかっていくという企画になるので、これが外との交流をどのように図っていくことができるかが組み込まれていなければならないという意見があった。次年度交流が進んで、自分たちでサークルをつくるときに、そのサークル自体が外に開かれていくというようなことがあっているのか。

○今回、10週連続で同じ親子が、いろんな体験と一緒に過ごす中で、今までは家庭の

中で、1人で失敗や成功していた方が、仲間と一緒に失敗や成功の体験をすることで、絆が予想以上に深まった。そうした中、参加者は、人に頼る方法を知ったことで、人を助ける、自分ができる範囲で人をサポートするということはこういうことなんだということを、身をもって知ることが出来たことで、家から一歩外に出ることが、子育てに非常に大事ということを気づいた方が非常に多かった。人とつながることが、自分にとっても、子どもにとってもいいことだということを実感された方たちが、一人一人行動変容されたことを実感しており、1人でどこかに行くときに、そこでつながった方に声をかけて一緒に行ってみる、そういう小さな変化でも、ほとんど参加された全ての方が、行動が変わったと感じている。

#### 【生活体験型学習の実施】

○防災キャンプの推奨とあるが、今年度はコロナや災害の関係等もあり、実施はされてないようだが、当初は、どのくらい実施を予定される計画で、対象はどういう人たちだったのか。

●通学合宿に限らず、自然体験、農業体験、防災キャンプ、ボランティア体験等も推奨するとしており、特に防災キャンプを必ずやりなさいというような仕方はしていない。地域の団体と実行委員会を作った形で、通学合宿にしても防災キャンプにしても実施をしているため、地域の団体と連携をとって、実施をしていただいている。防災キャンプについては、もともと予定として5館あったが、1館の計画が中止となり4館の実施となっている。この体験学習で推奨しているのは、子どもだけの体験活動ではなく、地域の大人との交流をお願いしており、その中で地域団体との連携をとってもらっている。

○通学合宿5館、夏休み、冬休み子ども教室が5館ということだが、実施している館はどこなのか。

●通学合宿については、神野、嘉瀬、巨勢、若楠、三瀬の5館。夏休み、冬休み子ども教室については勸興、西与賀、兵庫、春日、金立の5館。

○個別の事業というわけではなく、全体に関わることだが、コロナ前とコロナ後で、戻ったという意見もあったが、戻ってないということの記述がない。戻らなかったところもあって、戻らなかった理由を分析する必要があるのではないか。通学合宿はもっと実施されていたが、ノウハウが継承されていない、ボランティアの高齢化など様々な理由があるのではないか。

●分析は今後、公民館のほうにも照会をかけてやっていきたい。